

JR北海道グループは、お客様の安全を最優先に、安心してご利用いただけるサービスを提供し、お客様満足の向上をめざします。

# 「あした来た」へつなく

Vol.  
123



文／本間 吾里砂

## 安全・安定輸送の実現に向け エゾシカ対策に取り組む釧路運輸車両所

### 被害は甚大

#### 北海道のエゾシカ問題

つづらな瞳に愛らしいしぐさが印象的なエゾシカ。多くの観光客が訪れる北海道にとっで、エゾシカは観光資源の一つであるとともに、自然環境や農作物に大きな被害をもたらす



線路内に侵入するエゾシカ。

要因の一つです。

北海道にしか生息しないエゾシカは、雄の場合、最大で体長約一九センチ、体重約一五〇キログラムに達することもある国内最大の草食動物。明治初期の大雪と乱獲の影響で一時は絶滅寸前まで減少したものの、その後の保護政策により回復し、環境の変化や天敵だったエゾオオカミの絶滅も手伝って、平成二十三年度には約七十七万頭まで増加しました。その年の農林被害は、じつに六十四億円にも及んでいます。

北海道では平成二十六年三月に「北海道エゾシカ対策推進条例」を策定し、捕獲や捕獲した個体の有効活用を推し進め、エゾシカの保護管理に取り組んでいます。その結果、平成三十年年度には、生

息数は約六十六万頭まで減少しましたが、いまだエゾシカによる被害は深刻です。

#### 道北・道東で多発 エゾシカによる輸送障害

エゾシカによる被害は、畑の作物や樹木の皮を食い荒らすだけでなく、車や列車との衝突など、交通機関にも及んでいます。JR北海道では、エゾシカが原因で運休または列車に三十分以上の遅延が生じる輸送障害は平成十六年ころから増加し、平成二十九年には百十六件を記録。一方、平成九年ころまでは年間〇〜三件程度でしかなかったエゾシカと列車の衝突件数も、ピークの平成二十四年には二千三百七十六件を数えるまでに増加しています。

とくに道東・道北はエゾシカによる輸送障害が多発するエリア。道東エリアは豊かな自然に囲まれ、沿線にはラムサール条約に登録されている釧路湿原をはじめ、森林や牧場、太平洋など、北海道ならではの景色が広がっています。

#### 釧路運輸車両所による エゾシカ対策

釧路運輸車両所は運転士、車掌、検修、修車（工場系）の社員が勤務する道内唯一の職場で、それぞれ連携を図りながらエゾシカ対策に取り組んでいます。エゾシカは秋や冬、



車輪についた滑走傷。

春先の早朝や夕方に多く見られ、「列車の前を走る」「線路内で立ち止まる」「数十頭が横切る」など、その行動は予測不能。JR北海道では、これまでも鹿止柵を設置したり、警笛を鳴らしたりと、さまざまな対策を実施してきましたが、線路内の侵入をすべて防ぐことは困難です。そのため、運転士はあらかじめエゾシカが出没しやすいポイントを押さえ、早めにブレーキをかけた後、徐行しながら衝突回避に努めています。

また、道東エリアを走行する列車は他の線区を走行する列車と比べ、ブレーキをかける回



在姿車輪旋盤で削正した後の車輪。

数が多くなるため、こまめな車輪管理が求められます。ブレーキをかけることでできる滑走傷を放っておくと、傷とともに列車の振動も大きくなり、ボルトを緩める原因につながることも、定期的な車両検査を行うほか、乗務員から車輪の音が気になるなどの報告があった際にも、臨時の検査を行い滑走傷の有無や状態をチェック。検査の結果、基準値を超える傷が発見された場合は、車輪を削正し、修正円弧踏面と呼ばれる形状まで修復します。

二〇一七年十一月に在姿車輪旋盤が導入されたことで、それまで車両から車輪をはずしてひとつずつ削正していた作業が車輪をつけたままでも可能となり、大幅な効率化を実現。二日かかっていた工程も約半日までに短縮され、省力化も図っています。

JR北海道は、これからも北海道特有の課題と向き合い、列車の安全・安定輸送の実現を目指していきます。